

研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R5年12月20日(水)
第6号

働くことプロジェクト

1年 生活科 「ひろがれ えがお」

◎授業について

中学年の総合的な学習の時間では、「働くこと」について考える学習を行っています。「働くこと」に対して明るいイメージをもったり、働くことで誰かの役に立つかもしれないということに気付いたりしています。こうした学習の流れに繋がるように、低学年においても働くことを意識した学習を取り入れることで、自分も働くことは楽しいこと、自分も誰かの役に立てるといふ、という意識を育みたいと考えました。



そこで、1年生では、まず自分の身近な家庭生活について調べたり、振り返ったりする活動を通して、家の人がやっていることやそのありがたさ、家族の一員として自分でできることを考えました。

家族のみんなを笑顔にする「かそくにここに大きくせん」では、ふせんに様々な笑顔の場面を書き出し、自分たちでできそうなことはないか、やってみてどうだったかについて発表し合いました。家で挑戦したことを友達と紹介し合う中で、さらに自分の役割を増やしたり、継続しようとしたりする気持ちを高めることができました。

次に、こうした「じぶんでできること」を「じぶんたちでできること」と捉えて、学校生活においてどんなことができるのだろうか、話し合いました。自分たちで気付かないことがあるのかもしれないと、主事さんや栄養士さんたちにインタビューをして自分たちでできることを探りました。

その中で、主事さんたちが毎朝、時間をかけて校庭中の落ち葉を拾っていることに気付き、みんなから「おちばひろい」をしたい、と声があがり、生活の時間に行いました。研究授業では、落ち葉拾いの経験を通して、さらに自分たちでできることはないか話し合いました。この学習を通して、自分たちの役割について考え、見つけ、実行していこうとする意欲を高めることができました。



☆指導・講評

・目的意識をしっかり抑え、「誰」を「どのように」笑顔にしたいかを明確にさせてから、活動の内容を検討すると良い。いくつかの活動を提示しておいて、その中から選ばせるというやり方もある。

○落ち葉拾いの中で、自分で活動を選択するということが自然に行っていたことがよかった。(ほうき、ちりとり、ゴミ袋、手で拾うなど)生活科の学習の中で必要な要素が詰まった活動となっていた。

○動画の中で、4年生がインタビューで短くポイントを抑えていたのでよかった。

○1年生でも学校にできることがあると、他学年が気付けたことは、よい刺激となった。

▲「学校のため」には、1年生には大きすぎるテーマだった。もっと焦点化させて考えさせる方がよい。1時間だけで決まるものではないので、今後も計画的に続けてほしい。活動の中で気がつくことはたくさんあるので、そこをどのように取り上げるのかを考えていくとよい。

▲生活科の中で、伝え合いの仕方を育てていくことは大切。これから学年が上がっていくことを考えると、1年生のうちにその土台作りを行うことは重要である。

